

付着生物(ユウレイボヤ等)ラーバ情報

平成28年1月13日～17日に陸奥湾5定点で付着生物(ユウレイボヤ等)ラーバ調査を行ったので、その結果をお知らせします。

1 ラーバの出現数

ユウレイボヤラーバの出現数の推移は図1、表1のとおりで、奥内沖で1/13に0.8個/トン、久栗坂沖で1/17に0.6個/トン、川内沖で1/17に0.8個/トンで、他の2地点では見られませんでした。

オベリア類(通称クサ)のクラゲの出現数の推移は図2、表1のとおりで、久栗坂沖で1/17に5.6個/トン、野辺地沖で1/13に7.0個/トンで、他の3地点では見られませんでした。

キヌマトイガイラーバの出現数は図3、表1のとおりで、久栗坂沖で1/17に100.6個/トン、小湊沖で1/17に12.5個/トン、野辺地沖で1/13に218.8個/トン、川内沖で1/17に140.6個/トンで、奥内沖では見られませんでした。

ネンエキボヤラーバは見られませんでした。

マボヤラーバは、久栗坂沖で1/17に1.7個/トン見られました(表1)。

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	オベリア類	キヌマトイガイ	マボヤ
奥内沖	H28.1.13	0.8	0.0	0.0	0.0
久栗坂沖	H28.1.17	0.6	5.6	100.6	1.7
小湊沖	H28.1.17	0.0	0.0	12.5	0.0
野辺地沖	H28.1.13	0.0	7.0	218.8	0.0
川内沖	H28.1.17	0.8	0.0	140.6	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

2 水温の状況

各ブイの1月24日の平均水温は、表2のとおりです。

表2 各ブイの中層における日平均水温(1/24)	観測地点	水温(°C)	観測地点	水温(°C)
	平館ブイ	10.6	東湾ブイ	5.4
	奥内ブイ	7.2	浜奥内ブイ	4.0
	青森ブイ	8.7		

※奥内、浜奥内は10m層、他は15m層

3 今後の見込み

ユウレイボヤのラーバの秋～冬にかけての出現数は、平成25～26年度に比べて西湾では少なめ、東湾では同じくらいでした。毎月1回、久栗坂と川内で実施している付着状況調査では、久栗坂沖で11/17～12/15の間に付着が確認されており、これらが成長しているものと思われます。

ネンエキボヤは、10～11月にラーバが付着したパールネットについては、コロニー(群体)が無性生殖(「株分かれ」のように増える)で増加しているものと思われます。

オベリア(クサ)のクラゲは、数は少ないものの出現が続いています。川内沖の付着状況調査では12/15～1/17の間にオベリアの成体(ポリプ)の付着が見られる他、蟹田地区の漁業者からも付着が見えているという情報がありました。この時期に付着したラーバが、春先に被害を及ぼす大型のオベリアに成長していくものと考えられます。

キヌマトイガイ(コメガキ)の大型ラーバ(300ミクロン以上)が平成25～26年度より半月～1ヶ月位早めに出現してきており、今後増加していくものと思われます。

今後のラーバ等の出現動向については、次回(2月上旬発行予定)の情報を参考にしてください。

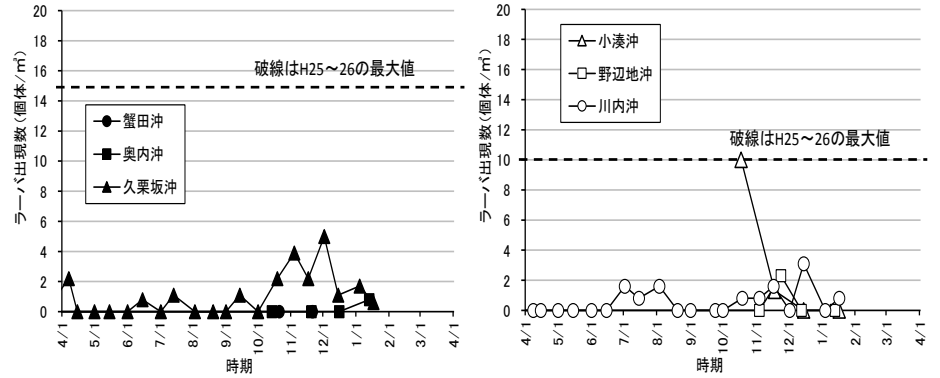


図1 ユウレイボヤラーバ出現数の推移(4～9月は久栗坂・川内のみ)

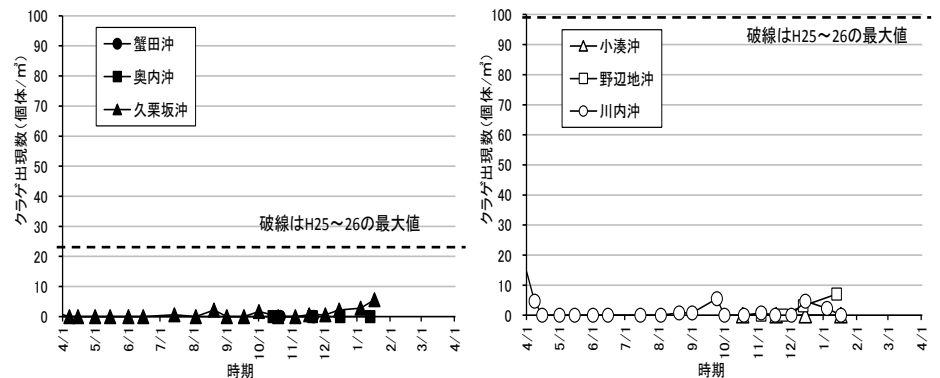


図2 オベリア類のクラゲ出現数の推移(4～9月は久栗坂・川内のみ)

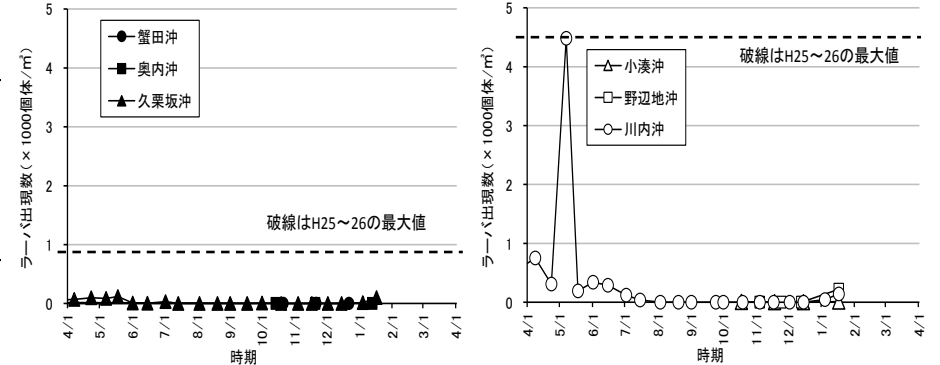


図3 キヌマトイガイのラーバ出現数の推移(4～9月は久栗坂・川内のみ)

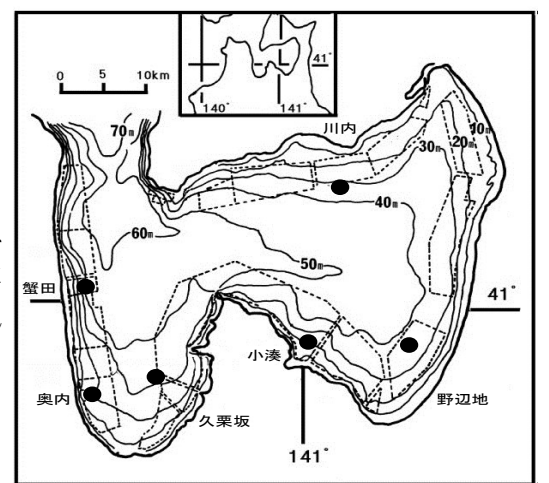


図4 ラーバ調査地点

